

學生の悩み

I 問題の所在

青年期において、かれらの精神身體的及び社會的關係における人格活動の要求阻止状態（フラストレーション）や葛藤（コンフリクト）は、家庭、學校、社會に對する反抗的態度、自我意識の不健全な抹殺による逃避などの不當適應行動となつて現われる。大學の持つ職能の重要な一つが、社會のあらゆる諸要請を常にその基底において察知しながら、選ばれた青年に、それにふさわしい英知と徳性を培うことにあるのはもちろんであるが、殊に現代のように、國際間の紛糾、社會的相剋など、人類社會全體が不安のさ中にある際には、われわれは、學生がいかなる問題を問題として悩み、いかなる障害を障害として苦しんでいるかを知ることが、現代の學生の精神的健康の維持と實現のため、不當適應の解消と、よりよき適應をなさしめるために、教育機能遂行上の基礎的要件である。

II 調査の目的

學生の指導の方向と目標とを明らかにするために、かれらのもつ悩みの實態を調査することを目的とする。

學生の悩み

坂 田 一

III 第一調査

「方法」自由記述法

「質問」自分が現在最も悩んでいる問題の二、三について記す。

「調査實施期」昭和27年10月

「調査對象」

西京大學 男子 29名

女子 72名

京都工藝纖維大學

男子 27名

立命館大學理工學部

男子 92名

「整理」悩みの種類をそれぞれの内容によつて分類した。

「結果」これを一つ一つの項目別にみると、就職問題が壓倒的に多く、次に思想問題、經濟的な問題、人生觀、再軍備の問題、將來の進路、戰爭の危機感、將來の生き方に對する不安、自信の缺如、戀愛問題などの順となつている。

なおこれを後述べる九つの領域(第二調査「方法」参照)に概括す

IV 第二調査

と、卒業後の職業と將來の方針に對する進路の問題が頗る多く、社會

「方法」質問紙法——プロブレム・チェックリスト

觀がこれに次ぎ、人生觀、經濟的條件及び情緒的條件、學園生活、家庭

第一調査の結果を骨子として (Cole L., Psychology of Adolescence

生活、社會生活、身體的條件の順となつてゐる。(第一表)

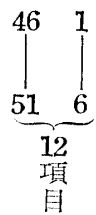
(Third Edition)—Rinehart Co., 1948. ①「生徒たちによつて報告され

第 1 表

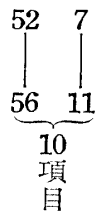
| | | 西京大學 | | 工藝織維 | 立命館 | 計 | |
|----------|---|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--|--------------|
| | | 男29名 | 女72名 | 27名 | 94名 | 222名 | |
| 1. 身體的條件 | 健康狀態 容貌 近眼 | 2 0 1 | 0 1 0 | 0 0 0 | 0 0 0 | 2 1 1 | 4 (2%) |
| 2. 家庭生活 | 家族の健康 家庭内の軋轢 封建的 結婚問題 住居問題 | 0 1 0 0 0 | 2 2 1 2 1 | 0 2 0 0 0 | 0 1 0 1 0 | 2 5 1 3 1 | 12 (6%) |
| 3. 學園生活 | 大學制度の不合理的 學課が生活と無關係 學課に不満 勉學の目的不明 趣味・スポーツと學業の對立 學習困難 單位不足 | 0 2 0 0 1 0 0 | 1 1 5 2 1 1 0 | 2 0 0 0 0 0 1 | 1 1 0 0 0 0 0 | 4 4 2 5 2 1 1 | 19 (9%) |
| 4. 社會生活 | 孤獨 誰も信用できない 異性との交際 | 0 0 0 | 2 1 2 | 0 0 0 | 1 2 0 | 3 3 2 | 8 (4%) |
| 5. 經濟的條件 | 經濟的に困難 アルバイト必要 アルバイトと學業が兩立しない 經濟的獨立を希望 | 6 2 0 0 | 7 0 2 3 | 2 0 0 0 | 8 2 0 0 | 23 4 2 4 | 32 (14%) |
| 6. 進路 | 就職問題 將來の進路 職業の選擇 家庭婦人として學業との矛盾 | 3 2 1 0 | 5 8 0 2 | 15 4 0 0 | 66 4 0 0 | 89 18 1 2 | 110 (50%) |
| 7. 社會觀 | 戰爭の危機 再軍備(平和問題) 思想問題 現實と理想の矛盾 社會の醜惡 | 6 4 10 2 2 | 4 4 8 2 1 | 0 2 3 0 0 | 6 9 4 0 0 | 16 19 25 4 3 | 67 (30%) |
| 8. 人生觀 | 人生觀 將來の生き方に對する不安 宗教 戀愛觀 愛情問題 | 6 0 0 0 0 | 12 9 3 1 2 | 0 0 0 1 0 | 4 3 1 0 2 | 22 12 4 2 4 | 44 (20%) |
| 9. 情緒的條件 | 劣等觀 自信の缺如 能力の限界 神經質 卒業後の經濟的不安 就職後の不安 戀愛問題 愛情を求める | 0 1 1 0 0 0 3 0 | 1 9 0 0 1 2 3 0 | 0 1 0 2 0 0 2 0 | 0 1 1 0 0 1 2 1 | 1 12 2 2 1 3 10 1 | 32 (14%) |

た諸困難」(p. 154)の分類による8領域32項目、及び京都工芸繊維大學における「學生の悩んでいる問題の調査表及び Mooney の Problem check List を参考として作成した東北大學教育心理學研究室の調査票 P-1」を参照して作成したのが「學生の悩みの調査表」(第2表)である。

I、身體的條件



II、家庭生活



第2表

取扱秘

次の事項を記入してください。

| | | | | |
|----|-------|----------|----|----|
| 學部 | 學科 | (回) 生 | 氏名 | 性別 |
| 年齢 | 生年月日 | 昭和 年 月 日 | 日生 | |
| | 調査年月日 | 昭和 年 月 日 | | |

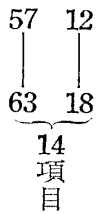
記入についての注意

われわれは誰でも気がかかる困難な問題をもっている。次の諸問題はそのような事がらをリストに掲げたものである。あなたはこのリストの各項目に目を通して番號の順にあなた自身が一番気に入っている問題を選んで、その番號を○印でかこんでほしい。(例えば「24自分の意見を思うように發表できない」の24を○でかこむ。)

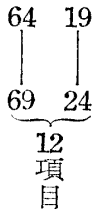
これは試験ではない。○の数が多いいから悪い、少ないからよいということはないので、學生の悩みの實態を知り、その解決への助力をするためと、學生諸君

學生の悩み

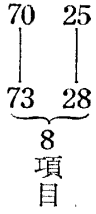
III、學園生活



IV、社會生活



V、經濟的條件



VI、進路(卒業後の職業と將來の方針)

が自らの悩みを再認識するのに役立てるためであるからすなおに答えればよい。全部終つたら下の質問に答える。

- 1 健康に自信がない。
- 2 非常に疲れやすい。
- 3 眠れぬことが多い。
- 4 胃腸が弱い。
- 5 度々頭痛がする。
- 6 呼吸器系統の疾患がある。
- 7 自宅・下宿などで住居の問題で悩む。
- 8 家庭内に軋轢(あつれき)がある。
- 9 家庭に病人がある。
- 10 両親と意見が合わないことが多い。
- 11 両親にすべてを打ちあけにくい。
- 12 自分の勉學の目的がはつきりしない。
- 13 學課が生活と無關係である。
- 14 生活にうるおいがたい。
- 15 趣味・スポーツと學業が兩立しない。
- 16 學業の負擔が多すぎる。

- 17 好きなものを讀む機械が少ない。
- 18 レクリエーションの機会が少なすぎる。
- 19 社交生活が少なすぎる。
- 20 協調性に乏しい。
- 21 應待が下手である。
- 22 孤獨に悩む。
- 23 はずかしがりやである。
- 24 自分の意見を思うように發表できない。
- 25 家が財政的に困っている。
- 26 學費に困っている。
- 27 奨學金が貰えなく困る。
- 28 財政的に家庭に頼りたくない。
- 29 就職の問題に悩む。
- 30 將來の進路がはつきりしない。
- 31 職業についての知識が十分に得られない。
- 32 戦争のことが氣になる。
- 33 再軍備の問題が氣になる。
- 34 思想問題に悩んでいる。
- 35 現在の社會制度に不満がある。
- 36 人生問題に悩む。
- 37 將來の生き方に迷う。
- 38 満足を得られるような宗教がない。
- 39 主體性の缺如に悩む。
- 40 劣等感に悩む。
- 41 自信の缺如に悩む。
- 42 能力に乏しいと思ふ。
- 43 神經質である。
- 44 物事にこだわりすぎる。
- 45 決斷力がない。
- 46 身體的缺陷に悩む。
- 47 無器用である。
- 48 自分の容姿が人によい印象を與えない。
- 49 記憶力が悪いと思ふことがある。
- 50 何をするのもいやなことが多い。
- 51 氣が散つて勉強ができないことが多い。
- 52 親に理解がない。
- 53 両親が干渉しすぎる。

- 54 家庭が困難に扱われている。
- 55 父がないことを悩む。
- 56 母がないことを悩む。
- 57 十分に勉強にうちこめない。
- 58 讀書力が不足している。
- 59 成績が悪くて悩んでいる。
- 60 學校で面白くない講義が多い。
- 61 教師と軋轢がある。
- 62 男女共學に困っている。
- 63 大學の制度に不満がある。
- 64 純卒力に乏しい。
- 65 異性とうまく交際ができない。
- 66 たやすく他人にリードされる。
- 67 悪い女だちがあつて困る。
- 68 自分の悩みを相談する人がない。
- 69 誰も信用できない。
- 70 希望するアルバイトがなく困る。
- 71 休暇にはアルバイトの必要がある。
- 72 常時アルバイトの必要がある。
- 73 アルバイトと學業が兩立しない。
- 74 卒業後の社會生活について不安を感じる。
- 75 大學卒業後の進路について助言が欲しい。
- 76 家庭婦人として學業が障害になる。(女子のみ)
- 77 政治に對し不信失望を感じる。
- 78 社會の醜惡さが嫌になる。
- 79 現實と理想の矛盾を感じる。
- 80 社會的慣習の束縛に悩む。
- 81 道徳的煩悶がある。
- 82 道徳的基準がはつきりしない。
- 83 精神的壓迫から開放されたい。
- 84 愛情の考え方に悩む。
- 85 實踐的迫力に乏しい。
- 86 ねばり強さに缺けている。
- 87 激しやすい。
- 88 異性の愛情を求めている。
- 89 戀愛問題で悩んでいる。
- 90 同性愛の問題で悩んでいる。

| | |
|---|--|
| 1 | |
| 2 | |
| 3 | |
| 4 | |
| 5 | |
| 6 | |
| 7 | |
| 8 | |
| 9 | |

次の質問に答えて下さい。

1. ○をつけた事がらのうち最も悩みとなっている問題を三つ以内選んでその番
 號と、相談するとすればその相手を書いて下さい。
 番號
 (近親・教師・先輩・友人・その他・または自分できめるなど)
 相談する相手

.....

2. あなたがこのリストでマークした事項があなたの悩みを完全に描き出してい
 ると思いますか。

描き出している いない
 もしこれ以上大きな悩みとして附加すべき項目あるいは説明が望まなければそ
 れを記入して下さい。

74 29
 76 31
 5項目

(女子は6項目)

VII、社會觀

32 35
 80 77
 8項目

VIII、人生觀

36 39
 84 81
 8項目

IX、情緒的條件

40 45
 90 85
 12項目

備考

この調査はあくまで學生諸君のガイダンスを目的とするもので、思想をみる
 とか、就職のための資料とするとかの意圖は全くないことを徹底してほしいと
 調査者へ依頼しておいた。

學生の悩み

「調査實施期」昭和28年2月
 「調査對象」

西京大學

文家政學部一、二回生

文家政學部三、四回生

農學部

女子短期大學部

京大宇治分校

京大吉田分校

工藝纖維大學

計

總計

| | |
|----|------|
| 男子 | 21名 |
| 女子 | 123名 |
| 男子 | 8名 |
| 女子 | 38名 |
| 男子 | 123名 |
| 女子 | 3名 |
| 男子 | 70名 |
| 女子 | 4名 |
| 男子 | 194名 |
| 女子 | 79名 |
| 男子 | 2名 |
| 女子 | 51名 |
| 男子 | 476名 |
| 女子 | 240名 |
| 男子 | 716名 |
| 女子 | |

備考

西京大學文家政學部一、二回生、農學部及び工藝纖維大學における男子193
 名、女子108名では、氏名を書かせた。それは工藝纖維大學の調査が記名式で
 あつて、これとの比較を試みたかつたのと、今後この研究をあらゆる方面から
 検討するとき好都合であると考へたからである。しかし無記名の方が報告しや
 すいという一部學生の意見を尊重して途中で方針を變えて西京大學文家政學部

三、四回生、女子短期大學部、京大における男子182名、女子110名では氏名は任意とした。

「整理」

I 一般方式によるもの、

(1) 悩みの数について

悩みの全報告件数は男子學生9,100件、女子學生3,933件、合計13,033

に、全體的に、現代青年學生の悩みを中心としての共通類型がよく現

ある。この結果からみると「VII 社會觀」が壓倒的に多いことがわかると共に、全領域を通じて、報告件数の多い項目順に並べたのが第3表で

第 3 表

| 順位 | 回答數 | 番號 | 領域 | 回答の% | |
|----|-----|----|------|------|--------------------|
| 1 | 378 | 79 | VII | 52.7 | 現實と理想の矛盾を感じる |
| 2 | 324 | 77 | " | 46.6 | 政治に對して不信失望を感じる |
| 3 | 329 | 33 | " | 45.9 | 再軍備の問題が氣になる |
| 4 | 309 | 32 | " | 43.1 | 戦争のことが氣になる |
| 5 | 287 | 51 | I | 40.0 | 氣が散つて勉強できないことが多い |
| 6 | 286 | 21 | IV | 39.9 | 應待が下手である |
| 7 | 272 | 49 | I | 37.9 | 記憶力が悪いと思うことがある |
| 8 | 270 | 35 | VII | 37.7 | 現在の社會制度に不満がある |
| 9 | 268 | 78 | " | 37.4 | 社會の醜惡さが嫌になる |
| 10 | 263 | 37 | VIII | 36.7 | 將來の生き方に迷う |
| " | 263 | 58 | III | 36.7 | 讀書力が不足している |
| 11 | 262 | 44 | IX | 36.5 | 物事にこだわりすぎる |
| 12 | 248 | 74 | VI | 34.6 | 卒業後の社會生活について不安を感じる |
| 13 | 245 | 45 | IX | 34.2 | 決斷力がない |
| 14 | 240 | 24 | IV | 33.5 | 自分の意見を思うように發表できない |
| 15 | 239 | 30 | VI | 33.3 | 將來の進路がはつきりしない |
| 16 | 233 | 17 | III | 32.5 | 好きなものを讀む機會が少ない |
| 17 | 232 | 60 | " | 32.4 | 學校で面白くない講義が多い |
| 18 | 220 | 43 | IX | 30.7 | 神經質である |
| " | 220 | 85 | " | 30.7 | 實踐的迫力に乏しい |
| 19 | 219 | 71 | V | 30.5 | 休暇にはアルバイトの必要がある |
| 20 | 216 | 41 | IX | 30.1 | 自信の缺如に悩む |
| 21 | 214 | 75 | VI | 29.8 | 大學卒業後の進路について助言が欲しい |
| 22 | 208 | 63 | III | 29.0 | 大學の制度に不満がある |
| 23 | 204 | 57 | III | 28.4 | 十分に勉強にうちこめない |
| " | 204 | 42 | IX | 28.4 | 能力に乏しいと思う |
| 24 | 202 | 12 | III | 28.2 | 自分の勉學の目的がはつきりしない |
| 25 | 188 | 36 | VIII | 26.2 | 人生問題に悩む |

第 4 表

| 學生の悩み | 調査人数 | | I | II | III | IV | V | VI | VII | VIII | IX |
|-------------|-------|------------------------|---------------------------|------------------------|---------------------------|---------------------------|--------------------------|-------------------------|--------------------------|--------------------------|---------------------------|
| | 調査人数 | 項目数 平均 比率% | | | | | | | | | |
| 男 | 476 名 | 總數 項目数 平均 比率% | 1080 12 90 18.9 | 424 10 42 8.8 | 1349 14 96 20.1 | 1234 12 103 21.6 | 812 8 102 21.4 | 595 5 119 24.9 | 1411 8 176 36.9 | 802 8 100 21.0 | 1393 12 116 24.3 |
| 女 | 240 名 | 總數 項目数 平均 比率% | 481 12 40 16.6 | 191 10 19 7.9 | 607 14 43 17.9 | 449 12 37 15.4 | 265 8 33 13.7 | 325 6 54 22.4 | 695 8 87 36.2 | 355 8 44 18.3 | 565 12 47 19.5 |
| 西京大學 | 386 名 | 總數 項目数 平均 比率% | 795 12 66 17.1 | 295 10 30 7.7 | 972 14 69 17.8 | 756 12 63 16.3 | 474 8 59 15.2 | 451 5 90 23.3 | 1108 8 139 36.0 | 572 8 72 18.6 | 977 12 81 20.9 |
| 京都大學 | 279 名 | 總數 項目数 平均 比率% | 648 12 54 19.3 | 258 10 26 9.3 | 825 14 59 21.1 | 779 12 65 23.2 | 524 8 66 23.6 | 360 5 72 25.8 | 853 8 107 38.3 | 514 8 64 22.9 | 808 12 67 24.0 |
| 工藝織維 大 學 | 51 名 | 總數 項目数 平均 比率% | 118 12 10 19.6 | 62 10 6 11.7 | 159 14 11 21.5 | 148 12 12 23.5 | 79 8 10 19.6 | 109 5 22 43.1 | 145 8 18 35.2 | 71 8 9 17.6 | 173 12 14 27.4 |
| 總 計 | 716 名 | 總數 項目数 平均 比率% | 1561 12 130 18.1 | 615 10 62 8.6 | 1956 14 140 19.5 | 1683 12 142 19.8 | 1077 8 135 18.8 | 920 5 184 25.6 | 2106 8 263 36.7 | 1157 8 144 20.1 | 1958 12 163 22.7 |

(2) 領域別の回答人員數、
各領域別の總應答數を各領域の項目數で除した數、すなわち各領域中

の各項平均數を、性別、學校別、及び總計で示したのが第 4 表であり、グラフで示したのが第 1、2、3 圖である。

備考

「76 家庭婦人として學業が障害になる」は女子のみに回答を求めたし、しかも第二調査の I では 6 名、II では 1 名もなかつたので、整理に當たつて、領域別の項目平均を出す場合は「VI 進路」については、男女別の場合を除いて全部 5 項目として取扱つた。

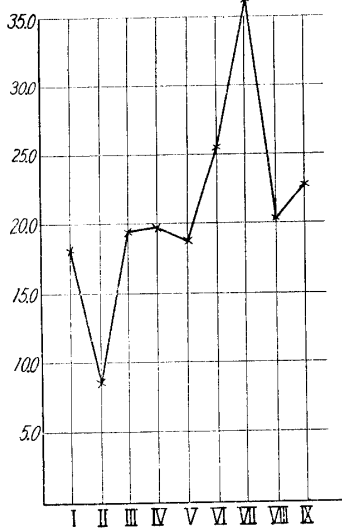
これによると、次のことがあげられる。

(A) 總計において全般的にみると、「VII 社會觀」についての悩みが壓倒的に多く、次に「VI 進路」であり、第三位は「IX 情緒的條件」で「VIII 人生觀」、「IV 社會生活」、「III 學園生活」は略同位で、「V 經濟的條件」、「I 身體的條件」がつづき、「II 家庭生活」は極めて低い位置を占めている。

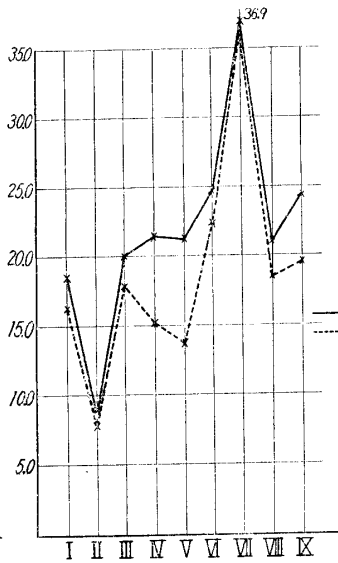
(B) これらの悩みの領域の内容を男女別にみると、男子では、やはり「VII 社會觀」が斷然首位を占め、第二位の「IV 進路」が「IX 情緒的條件」と略同位で、「IV 社會生活」、「V 經濟的條件」、「VIII 人生觀」、「學園生活」、「I 身體的條件」、「家庭生活」はずつと低くなつてゐる。

學生の悩み

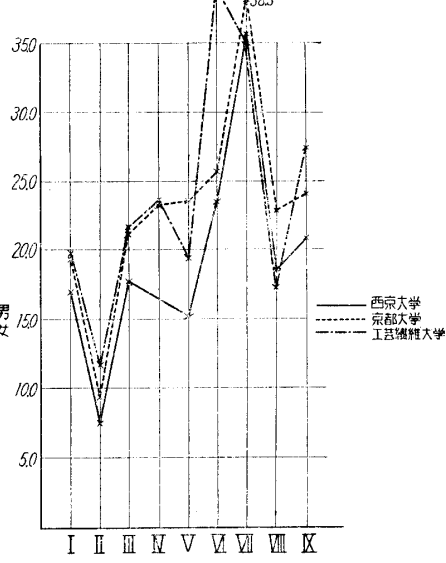
第一圖 總計 (I)



第二圖 性差 (I)



第三圖 學校差 (I)



女子でも、第一位は「Ⅷ社會觀」で頗る多く、「Ⅴ進路」が第二位、「Ⅸ情緒的條件」が第三位、「Ⅷ人生觀」「Ⅲ學園生活」「Ⅰ身體的條件」がこれに次ぎ、「Ⅳ社會生活」「Ⅴ經濟的條件」が少し下り、「家庭生活」は最低位である。「Ⅳ社會生活」では男子が女子よりも消極的な不安定性を示している。また「Ⅴ經濟的條件」が低いことからして、西京大學の女子學生が一般的に家庭の經濟狀態の安定して

いることがうかがえると思う。また「Ⅸ情緒的條件」は男子は女子にくらべてはるかに不適應を示している。

(C) 學校別にみると、一番顯著な差異は、工藝纖維大學では、「Ⅴ進路」が第一位で、他の兩大學よりも遙かに上位にあるが、これは四回生のみであつたことに歸因すると思う。また西京大學では、「Ⅲ學園生活」と「Ⅳ社會生活」が低くなつてゐるが、これは前者では、「14生活にうるおいが無い」、「16學業の負擔が多すぎる」、後者では「65異性とうまく交際ができない」、「68自分の悩みを相談する人がない」が比較的少なかつたためである。「Ⅴ經濟的條件」では京大が高く、西京大は低く、工藝纖維大學はその中間に位している。また「Ⅷ人生觀」では京大がずつと多く、「Ⅸ情緒的條件」は、工藝纖維大學、京大、西京大の順に低くなつてゐるが、工藝纖維大學が多いのは、「44物事にこだわりすぎる」、「86ねばり強さに缺けてゐる」が、この原因となつてゐる。これは自省が強すぎることによるためではあるまいか。

(3) 問題別回答人員數

(A) 回答件數を回答者全部で除した比率(%)で示したのが第5表である。

① 身體的條件

「51氣が散つて勉強ができないことが多い」が40.0%、「49記憶力が悪いと思うことがある」が37.9%、「2非常に疲れやすい」が21.9%、「1健康に自信がなす」が21.3%である。

② 家庭生活

第5表 項目別 總計 (I)

| | 人数 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 46 | 47 | 48 | 49 | 50 | 51 |
|---|-----|-------------|-------------|------------|-------------|------------|-----------|-----------|-------------|-----------|-------------|-------------|-------------|
| 1 | 716 | 153 21.3 | 157 21.9 | 91 12.7 | 132 18.4 | 79 11.4 | 41 5.7 | 57 7.1 | 105 14.6 | 57 7.1 | 272 37.9 | 130 18.2 | 287 40.0 |

| | 人数 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 52 | 53 | 54 | 55 | 56 |
|---|-----|-------------|-----------|-----------|-----------|-------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 2 | 716 | 128 17.8 | 54 7.5 | 47 6.6 | 64 8.9 | 152 21.2 | 21 2.9 | 44 6.2 | 28 3.9 | 48 6.7 | 29 4.1 |

| | 人数 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 57 | 58 | 59 | 60 | 61 | 62 | 63 |
|---|-----|-------------|------------|-------------|------------|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|------------|-------------|----------|----------|-------------|
| 3 | 716 | 202 28.2 | 78 10.9 | 145 20.2 | 87 12.2 | 75 10.4 | 233 32.5 | 134 18.7 | 204 28.4 | 263 36.7 | 82 11.4 | 232 32.4 | 8 1.2 | 5 0.6 | 208 29.0 |

| | 人数 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 64 | 65 | 66 | 67 | 68 | 69 |
|---|-----|-------------|-------------|-------------|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-----------|----------|-------------|------------|
| 4 | 716 | 181 25.3 | 118 16.4 | 286 39.9 | 94 13.2 | 184 25.7 | 240 33.5 | 123 17.0 | 162 22.6 | 70 9.7 | 9 1.2 | 141 19.6 | 75 10.4 |

| | 人数 | 25 | 26 | 27 | 28 | 70 | 71 | 72 | 73 |
|---|-----|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-----------|------------|
| 5 | 716 | 184 25.6 | 116 16.2 | 129 18.0 | 135 18.7 | 147 20.5 | 219 30.5 | 69 9.6 | 78 10.8 |

| | 人数 | 29 | 30 | 31 | 74 | 75 | 76 |
|---|-----|-------------|-------------|------------|-------------|-------------|----------|
| 6 | 716 | 133 18.5 | 239 33.3 | 80 11.0 | 248 34.6 | 214 29.8 | 6 0.8 |

| | 人数 | 32 | 33 | 34 | 35 | 77 | 78 | 79 | 80 |
|---|-----|-------------|-------------|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 7 | 716 | 309 43.1 | 329 45.9 | 92 12.8 | 270 39.1 | 334 46.6 | 268 37.0 | 378 52.7 | 126 17.5 |

| | 人数 | 36 | 37 | 38 | 39 | 81 | 82 | 83 | 84 |
|---|-----|-------------|-------------|-------------|-------------|------------|-------------|-------------|-------------|
| 8 | 716 | 188 26.2 | 263 37.2 | 101 14.1 | 135 18.8 | 87 10.7 | 112 15.7 | 105 14.6 | 166 23.0 |

| | 人数 | 40 | 41 | 42 | 43 | 44 | 45 | 85 | 86 | 87 | 88 | 89 | 90 |
|---|-----|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-----------|----------|
| 9 | 716 | 149 20.5 | 216 30.2 | 204 48.4 | 220 32.1 | 262 36.5 | 245 34.2 | 220 32.1 | 159 22.2 | 100 13.9 | 113 15.7 | 67 9.3 | 3 0.4 |

「11兩親にすべてを打ちあけにくさ」が21.2%、「7自宅、下宿など住宅の問題で悩む」が17.8%となつて、その他は一般に低率である。

③ 學園生活

「58讀書力が不足している」が36.7%で第一位、「17好きなものを読む機会が少ない」が13.5%、「60學校で面白くない講義が多い」が32.4%、「63大學の制度に不満がある」が29.0%、「57十分に勉強にうちこめない」が28.4%、「12自分の勉學の目的がはつきりしない」が28.2%、「14生活にうるおいが無い」が20.2%の順となつている。

④ 社會生活

「21應待が下手である」が39.9%、「24自分の意見を思うように發表しにくい」が33.5%、「23はづかしがりやである」が25.7%、「19社交生活が少なすぎる」が25.3%、「65異性とうまく交際ができない」が22.6%である。

⑤ 經濟的條件

「71休暇にはアルバイトの必要がある」が30.5%、「25家が財政的に困っている」が25.6%、「70希望するアルバイトがなくて困る」20.5%となつている。

⑥ 進路

「74卒業後の社會生活について不安を感じる」が34.6%、「30將來の進路がはつきりしない」が33.3%、「75大學卒業後の進路について助言が欲しい」が29.8%である。他は「29就職の問題に悩む」は

18.5%だが、これは上學年に進むに従つて多くなつている。

⑦ 社會觀

「79現實と理想の矛盾を感じる」が52.7%、で全領域を通じての最高位を占めてゐる。「77政治に對し不信失望を感じる」が46.6%、「33再軍備の問題が氣になる」が45.9%、「32戦争のことが氣になる」43.1%、「35現在の社會制度に不満がある」が39.1%、「78社會の醜惡さが嫌になる」が37.0%となつてゐる。

⑧ 人生觀

「37將來の生き方に迷う」が37.2%、「36人生問題に悩む」が26.2%、「84愛情の考え方について悩む」が23.0%となつてゐる。

⑨ 情緒的條件

「42能力に乏しいと思う」が48.4%で全領域を通じて第二位にあり、「44物事にこだわりすぎる」が36.5%、「45決斷力がなく」が34.2%、「43神經質である」と「85實踐的迫力に乏しい」が32.1%、「41自信の缺如に悩む」が30.2%、「86ねばり強さに缺けている」が22.2%、「40劣等感に悩む」が20.5%となつてゐる。

(B) 性差

第5表を男女別に整理したのが第6表である。

① 身體的條件では男女の差に格別の相違はみられないが、「1健康に自信がない」は男子が26.0%で女子の倍數以上となつてゐる。一方「5度々に頭痛がする」では女子が17.9%、男子は7.5%である。

② 家庭生活 「11兩親にすべてを打ちあけにくさ」では男女殆んど同率だが、「7自宅、下宿などで住宅の問題で悩んでいる」は男子は

第 6 表 性 差 (A)

學生の悩み

| 人数 | | 性別 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 46 | 47 | 48 | 49 | 50 | 51 |
|----|-----|----|-------------|-------------|------------|------------|------------|-----------|-----------|------------|------------|-------------|------------|-------------|
| 1 | 476 | 男 | 124 26.0 | 109 23.1 | 65 13.6 | 91 19.1 | 36 7.5 | 37 7.7 | 47 9.8 | 71 14.7 | 32 6.7 | 174 38.6 | 85 17.8 | 209 43.9 |
| | 240 | 女 | 29 12.1 | 48 20.0 | 26 10.8 | 41 17.0 | 43 17.9 | 4 1.6 | 10 4.1 | 34 14.1 | 25 10.4 | 98 40.8 | 45 18.7 | 78 32.5 |

| 人数 | | 性別 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 52 | 53 | 54 | 55 | 56 |
|----|-----|----|------------|------------|-----------|------------|-------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 2 | 476 | 男 | 94 19.7 | 48 10.0 | 29 6.1 | 39 8.2 | 100 21.0 | 13 2.7 | 25 5.2 | 20 4.2 | 35 7.3 | 21 4.2 |
| | 240 | 女 | 34 14.1 | 6 1.5 | 18 7.5 | 25 10.4 | 52 21.6 | 8 3.3 | 19 7.9 | 8 3.3 | 13 5.4 | 8 3.3 |

| 人数 | | 性別 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 57 | 58 | 59 | 60 | 61 | 62 | 63 |
|----|-----|----|-------------|------------|-------------|------------|------------|-------------|------------|-------------|-------------|------------|-------------|-----------|----------|-------------|
| 3 | 476 | 男 | 129 27.0 | 55 11.5 | 105 22.0 | 67 14.0 | 62 12.9 | 180 37.8 | 86 18.0 | 138 28.9 | 172 36.1 | 52 10.9 | 141 29.6 | 4 0.8 | 5 1.0 | 153 31.9 |
| | 240 | 女 | 73 30.4 | 23 9.5 | 40 16.4 | 20 8.2 | 13 5.4 | 53 22.0 | 48 20.0 | 66 27.5 | 91 37.9 | 30 12.3 | 91 37.9 | 4 11.6 | 0 — | 55 22.9 |

| 人数 | | 性別 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 64 | 65 | 66 | 67 | 68 | 69 |
|----|-----|----|-------------|------------|-------------|------------|-------------|-------------|------------|-------------|------------|----------|-------------|------------|
| 4 | 476 | 男 | 128 26.8 | 80 16.8 | 189 39.7 | 71 14.7 | 144 30.2 | 176 34.8 | 92 19.3 | 146 30.4 | 54 11.3 | 4 0.8 | 104 21.8 | 46 9.7 |
| | 240 | 女 | 53 22.0 | 38 15.8 | 97 40.4 | 23 9.5 | 40 16.4 | 64 26.6 | 31 12.9 | 16 6.6 | 16 6.6 | 5 2.0 | 37 15.4 | 29 12.1 |

| 人数 | | 性別 | 25 | 26 | 27 | 28 | 70 | 71 | 72 | 73 |
|----|-----|----|-------------|------------|------------|-------------|-------------|-------------|------------|------------|
| 5 | 476 | 男 | 152 31.9 | 95 19.9 | 89 18.6 | 103 21.6 | 104 21.8 | 142 29.8 | 62 12.9 | 65 13.6 |
| | 240 | 女 | 32 13.2 | 21 8.7 | 40 16.4 | 32 13.2 | 43 17.9 | 77 32.1 | 7 2.9 | 13 5.4 |

| 人数 | | 性別 | 29 | 30 | 31 | 74 | 75 | 76 |
|----|-----|----|------------|-------------|------------|-------------|-------------|----------|
| 6 | 476 | 男 | 87 17.8 | 162 34.0 | 57 10.9 | 152 31.7 | 137 28.6 | 0 — |
| | 240 | 女 | 46 19.0 | 77 32.0 | 23 9.5 | 96 40 | 77 32.0 | 6 1.5 |

| 人数 | | 性別 | 32 | 33 | 34 | 35 | 77 | 78 | 79 | 80 |
|----|-----|----|-------------|-------------|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|------------|
| 7 | 476 | 男 | 218 46.2 | 208 43.6 | 74 15.4 | 197 41.3 | 240 50.4 | 184 38.6 | 224 44.9 | 66 13.8 |
| | 240 | 女 | 91 37.8 | 121 50.4 | 18 7.5 | 73 30.4 | 94 39.1 | 84 35.0 | 154 64.1 | 60 24.6 |

| | 人数 | 性別 | 36 | 37 | 38 | 39 | 81 | 82 | 83 | 84 |
|---|-----|----|-------------|-------------|------------|------------|------------|------------|------------|-------------|
| 8 | 476 | 男 | 127 26.6 | 160 33.6 | 69 14.5 | 96 10.1 | 77 16.1 | 90 13.9 | 77 16.1 | 106 22.2 |
| | 240 | 女 | 61 25.4 | 103 42.9 | 32 13.2 | 39 16.2 | 10 4.1 | 22 9.1 | 28 11.6 | 60 24.6 |

| | 人数 | 性別 | 40 | 41 | 42 | 43 | 44 | 45 | 85 | 86 | 87 | 88 | 89 | 90 |
|---|-----|----|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|------------|-------------|------------|----------|
| 9 | 476 | 男 | 105 22.0 | 143 30.0 | 126 26.4 | 166 34.8 | 187 39.3 | 164 34.4 | 157 32.9 | 118 24.7 | 62 12.9 | 106 22.2 | 57 10.9 | 2 0.4 |
| | 240 | 女 | 44 18.2 | 73 30.4 | 78 31.6 | 54 22.5 | 75 31.2 | 81 33.7 | 63 24.1 | 41 17.0 | 38 15.8 | 7 2.9 | 10 4.1 | 1 0.4 |

19.7%で女子は自宅通學が多いせいか予想程多くなす。

③ 學園生活

「17好きなものを読む機会が少ない」では、男子が37.8%で、女子が22.0%となつているが、これは女子學生が經濟的に比較的恵まれた環境にあることの證左であらう。「58讀書力が不足している」ことを男女共に痛感している。「14生活にうるおいがない」と感じているのは男子の方が多い。また、「63大學の制度に不満がある」のは男子31.9%で、女子は22.9%だが、「60學校で面白くない講義が多い」のは逆に女子が37.9%で、男子は29.6%となつてい

る。「12自分の勉學の目的がはつきりしていない」のは女子の方が僅かだが多い傾向を示している。

④ 社會生活

「23はずかしがりやである」は男子30.2%、女子は16.4%、「24自分の意見を思うように發表できない」のは男子34.8%、女子は26.6%で、「65異性とうまく交際ができない」は男子30.4%で女子は6.6%で一般に男子の方が内気なようであり、また「68自分の悩みを相談する人がない」のは男子が多いようであるが、共に「21應待が下手である」ことを痛感している。

⑤ 經濟的條件

「25家が財政的に困つている」のは男子31.9%、女子13.2%、「26學資に困つている」のは男子19.9%、女子8.7%で、これはこの調査の對象性の特色でもあらう。しかし「休暇にはアルバイトの必要」を男女共に痛切に感じているのである。

⑥ 進路

「74卒業後の進路について不安を感じ」ているのは男女共に高率だが、女子學生は特にきわだつて多い。また「75大學卒業後の進路について助言が欲しい」、「30將來の進路がはつきりしない」も共にかなりの數を示している。

⑦ 社會觀

「79現實と理想の矛盾を感じる」、「77政治に對し不信失望を感じる」、「35現在の社會制度に不満がある」、「78社會の醜惡さが嫌になるは斷然高い位置を占めているが、79のみ女子が多く、また「80

社會的慣習の束縛に悩む」のは女子が24%、男子は13.8%である。

一方戦争に對しては、「33再軍備の問題が氣になる」「32戦争のことが氣になる」はこれまた高率である。

⑧ 人生觀

「37將來の生き方に悩む」では女子が49.9%、男子33.6%で女子が多い。

⑨ 情緒的條件

「42能力に乏しいと思う」をはじめ、一般に劣等感が著るしく見られる。ただ男子の方が比較的この傾向が強いようである。また異性の愛情を求めているのは男子22.2%で女子2.9%で男子の方に斷然多いのに、「IV社會生活」にみられるように積極性がないという結果が出ている。

II 選定方式によるもの

(I 一般方式によるもの)では90項目についてチェックさせたのであるが、IIにおいては○をつけた事からの全體のうち最も悩みとなつて問題をもつ三つ以内選ばせてそれを整理したものである。

(1) 悩みの數について

悩みの問題のうち三つ以内と指定したので、選んで報告した全回答件數は男子學生1253件、女子學生625件、合計1878件であるが、これを平均すると、男子學生は一人當り2.63件、女子學生は一人當り、2.61件で男女平均2.62件である。またこれを報告數の多い順に配列すると第7表となる。

學生の悩み

この結果を「I一般方式によるもの」の「悩みの數について」の結果と比較するとき、上位群だけで考えると、群としては相互に強い關連を持つてゐるが、その序列からみると、大きな相關がみとめられない。特にIで第六位の「21應待が下手である」と第七位の「49記憶力が悪いと思うことがある」がIIでは入つていないし、このIIで第六位の「84愛情の考え方について悩む」、第七位の「29就職の問題に悩む」が脱落している。

(2) 領域別回答人員數

「I一般方式によるもの」の場合と同様に、各領域の回答數をそれぞれの項目數で除した數、すなわち各領域中の各項平均數を、性別、學校別、及び總計で示したのが、第8表及び第4・5・6圖である。

(A) 總計において全般的にみると、「VI進路」が壓倒的に多く、次いで「VII社會觀」で、「VIII人生觀」が第三位、「IX情緒的條件」が第四位で、「V經濟的條件」、「III學園生活」「I身體的條件」、「IV社會生活」「II家庭生活」の順となつてゐる。

これをIの場合と比較すると、「VI進路」と「VII社會觀」が逆になつてゐるし、「VIII人生觀」がIではIIよりも低くなつてゐるが、その他の傾向は類似してゐる。

(B) これを男女別にみると、「VI進路」では大體等位にあるが、「VII社會觀」、「VIII人生觀」では女子が男子よりも遙かに多いという結果を示し、「V經濟的條件」では、男子がこの逆となつてゐる。

これらをIと比較すると、「I身體的條件」、「II家庭生活」、「IV社會生活」、「VI進路」のほかは異なつた傾向を示してゐる。

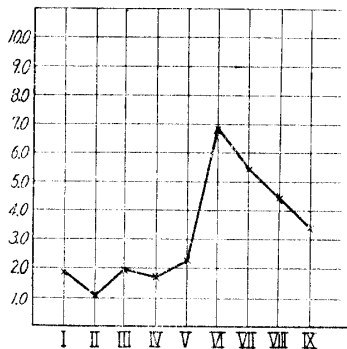
第 7 表

| 順位 | 回答数 | 番號 | 領域 | 回答の% | | Aにおける順位 |
|----|-----|----|------|-------|--------------------|---------|
| 1 | 90 | 37 | VIII | 12.5% | 將來の生き方に迷う | 10 |
| 2 | 69 | 30 | VI | 9.6 | 將來の進路がはつきりしない | 15 |
| 3 | 67 | 74 | " | 9.3 | 卒業後の社會生活について不安を感じる | 12 |
| " | 67 | 32 | VII | 9.3 | 戦争のことが気になる | 4 |
| 4 | 65 | 79 | " | 9.0 | 現實と理想の矛盾を感じる | 1 |
| 5 | 57 | 75 | VI | 7.9 | 大學卒業後の進路について助言が欲しい | 21 |
| 6 | 54 | 84 | VIII | 7.5 | 愛情の考え方について悩む | |
| 7 | 49 | 29 | VI | 6.8 | 就職の問題に悩む | |
| 8 | 47 | 36 | VIII | 6.5 | 人生問題に悩む | 25 |
| 9 | 46 | 35 | VII | 6.4 | 現在の社會制度に不満がある | 8 |
| 10 | 41 | 51 | I | 5.7 | 気が散つて勉強ができないことが多い | 5 |
| 11 | 39 | 41 | IX | 5.4 | 自信の缺如に悩む | 20 |
| " | 39 | 42 | " | 5.4 | 能力に乏しいと思う | 23 |
| 12 | 38 | 40 | " | 5.3 | 劣等感に悩む | |
| " | 38 | 45 | " | 5.3 | 決斷力がない | 13 |
| 13 | 37 | 33 | VII | 5.1 | 再準備の問題が気になる | 3 |
| " | 37 | 39 | VIII | 5.1 | 主體性の缺如に悩む | |
| 14 | 36 | 57 | III | 5.0 | 十分に勉強にうちこめない | 23 |
| " | 36 | 78 | VII | 5.0 | 社會の醜悪さが嫌になる | 9 |
| 15 | 35 | 77 | " | 4.9 | 政治に對し不信失望を感じる | 2 |
| 16 | 34 | 12 | III | 4.7 | 自分の勉學の目的がはつきりしない | 24 |
| " | 34 | 89 | IX | 4.7 | 戀愛問題で悩んでいる | |
| 17 | 31 | 1 | I | 4.3 | 健康に自信がない | |
| " | 31 | 44 | IX | 4.3 | 物事にこだわりすぎる | 11 |
| " | 31 | 25 | V | 4.3 | 家が財政的に困っている | |
| 18 | 28 | 24 | IV | 3.9 | 自分の意見を思うように發表できない | 14 |
| 19 | 26 | 58 | III | 3.6 | 讀書力が不足している | 10 |
| " | 26 | 88 | IX | 3.6 | 異性の愛情を求めている | |
| 20 | 23 | 63 | III | 3.2 | 大學の制度に不満がある | 22 |

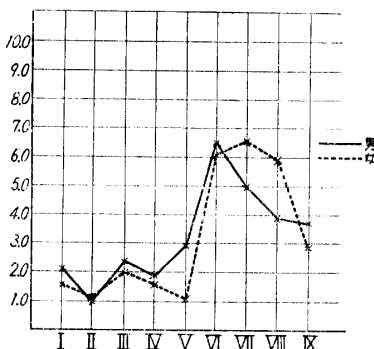
第 8 表 總 計 (Ⅱ)

| 調査人数 | | | I | II | III | IV | V | VI | VII | VIII | IX |
|-------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|
| 男 | 476 名 | 回答數 | 124 | 51 | 148 | 102 | 108 | 156 | 192 | 154 | 218 |
| | | 項目數 | 12 | 10 | 14 | 12 | 8 | 5 | 8 | 8 | 12 |
| | | 平均 | 10 | 5 | 11 | 9 | 14 | 31 | 24 | 19 | 18 |
| | | 比率% | 2.1 | 1.0 | 2.3 | 1.8 | 2.9 | 6.5 | 5.0 | 3.9 | 3.7 |
| 女 | 240 名 | 回答數 | 43 | 31 | 63 | 48 | 26 | 91 | 125 | 115 | 83 |
| | | 項目數 | 12 | 10 | 14 | 12 | 8 | 6 | 8 | 8 | 12 |
| | | 平均 | 4 | 3 | 5 | 4 | 3 | 15 | 16 | 14 | 7 |
| | | 比率% | 1.6 | 1.2 | 2.0 | 1.6 | 1.2 | 6.2 | 6.6 | 5.8 | 2.9 |
| 西京大學 | 386 名 | 回答數 | 73 | 42 | 112 | 82 | 52 | 138 | 187 | 156 | 152 |
| | | 項目數 | 12 | 10 | 14 | 12 | 8 | 5 | 8 | 8 | 12 |
| | | 平均 | 6 | 4 | 8 | 7 | 7 | 27 | 24 | 20 | 13 |
| | | 比率% | 1.5 | 1.0 | 2.0 | 1.8 | 1.8 | 6.9 | 6.2 | 5.1 | 3.3 |
| 京都大學 | 279 名 | 回答數 | 83 | 31 | 82 | 53 | 71 | 83 | 116 | 106 | 127 |
| | | 項目數 | 12 | 10 | 14 | 12 | 8 | 5 | 8 | 8 | 12 |
| | | 平均 | 7 | 3 | 6 | 4 | 9 | 17 | 15 | 13 | 11 |
| | | 比率% | 2.5 | 1.0 | 2.1 | 1.4 | 3.2 | 6.0 | 5.3 | 4.6 | 3.9 |
| 工藝織維大 | 51 名 | 回答數 | 11 | 9 | 17 | 15 | 11 | 26 | 14 | 7 | 22 |
| | | 項目數 | 12 | 10 | 14 | 12 | 8 | 5 | 8 | 8 | 12 |
| | | 平均 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 5 | 2 | 1 | 2 |
| | | 比率% | 1.9 | 1.9 | 1.9 | 1.9 | 1.9 | 9.8 | 3.9 | 1.9 | 3.9 |
| 總 計 | 716 名 | 回答數 | 167 | 82 | 211 | 150 | 134 | 247 | 317 | 209 | 301 |
| | | 項目數 | 12 | 10 | 14 | 12 | 8 | 5 | 8 | 8 | 12 |
| | | 平均 | 14 | 8 | 15 | 13 | 17 | 50 | 40 | 32 | 25 |
| | | 比率% | 1.9 | 1.1 | 2.0 | 1.8 | 2.3 | 6.9 | 5.5 | 4.4 | 3.4 |

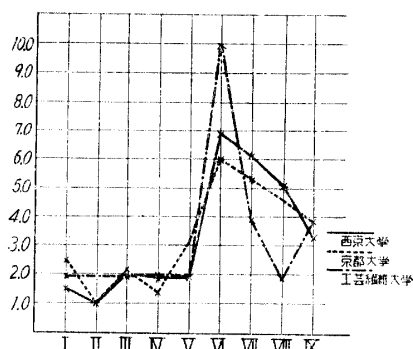
第四圖 總 計 (Ⅰ)



第五圖 性 差 (Ⅰ)



第六圖 學校差 (Ⅰ)



(C) 學校別にみると、工藝繊維大學は「Ⅵ進路」が頗る高く、「Ⅶ人生觀」では反對に低くなつていて、その他は全般的に總計の場合のⅠとⅡの相違のままになつてゐる。

(A) 回答件數を回答者全部で除した比率で示したのが第9表である。
 (B) 第9表を男女別に整理したのが第10表である。
 (C) 質問の表現度についての検討

第 9 表

| | | | | | | | | | | | | | |
|---|-----|-----------|-----------|----------|-----------|----------|----------|-----------|----------|----------|-----------|-----------|-----------|
| 1 | 人數 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 46 | 47 | 48 | 49 | 50 | 51 |
| | 716 | 31 4.3 | 15 2.0 | 1 0.1 | 13 1.8 | 5 0.6 | 5 0.6 | 20 2.7 | 5 0.6 | 6 0.8 | 13 1.8 | 12 1.6 | 41 5.6 |

| | | | | | | | | | | | |
|---|-----|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 2 | 人數 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 52 | 53 | 54 | 55 | 56 |
| | 716 | 22 3.1 | 13 1.8 | 10 1.4 | 12 1.6 | 7 0.9 | 5 0.6 | 4 0.5 | 4 0.5 | 2 0.3 | 3 0.4 |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-----|-----------|----------|-----------|----------|----------|-----------|----------|-----------|-----------|----------|-----------|----------|----------|-----------|
| 3 | 人數 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 57 | 58 | 59 | 60 | 61 | 62 | 63 |
| | 716 | 34 4.7 | 4 0.5 | 20 2.7 | 9 1.2 | 9 1.2 | 19 2.6 | 5 0.6 | 36 4.8 | 26 3.6 | 7 0.9 | 17 2.3 | 1 0.1 | 1 0.1 | 23 3.2 |

| | | | | | | | | | | | | | |
|---|-----|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|-----------|--------|----------|-----------|-----------|
| 4 | 人數 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 64 | 65 | 66 | 67 | 68 | 69 |
| | 716 | 10 1.4 | 19 2.6 | 15 2.0 | 10 1.4 | 18 2.4 | 28 3.9 | 4 0.5 | 11 1.5 | 0 0 | 2 0.3 | 17 2.3 | 16 2.2 |

| | | | | | | | | | |
|---|-----|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|-----------|
| 5 | 人數 | 25 | 26 | 27 | 28 | 70 | 71 | 72 | 73 |
| | 716 | 31 4.3 | 22 3.1 | 21 2.7 | 17 2.3 | 14 1.9 | 13 1.8 | 5 0.6 | 11 1.5 |

| | | | | | | | |
|---|-----|-----------|-----------|----------|-----------|-----------|--------|
| 6 | 人數 | 29 | 30 | 31 | 74 | 75 | 76 |
| | 716 | 49 6.8 | 69 9.6 | 5 0.6 | 67 9.4 | 57 7.9 | 0 0 |

| | | | | | | | | | |
|---|-----|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 7 | 人數 | 32 | 33 | 34 | 35 | 77 | 78 | 79 | 80 |
| | 716 | 67 9.4 | 37 5.1 | 14 1.9 | 46 6.4 | 35 4.5 | 36 4.8 | 65 9.0 | 17 2.3 |

| | | | | | | | | | |
|---|-----|-----------|------------|----------|-----------|----------|-----------|----------|-----------|
| 8 | 人數 | 36 | 37 | 38 | 39 | 81 | 82 | 83 | 84 |
| | 716 | 47 6.5 | 90 12.1 | 8 1.1 | 37 5.1 | 8 1.1 | 16 2.2 | 9 1.2 | 44 6.2 |

| | | | | | | | | | | | | | |
|---|-----|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|-----------|-----------|----------|
| 9 | 人數 | 40 | 41 | 42 | 43 | 44 | 45 | 85 | 86 | 87 | 88 | 89 | 90 |
| | 716 | 38 5.3 | 39 5.4 | 39 5.4 | 21 2.7 | 31 4.3 | 38 5.2 | 16 2.2 | 14 1.9 | 5 0.6 | 26 3.6 | 34 4.6 | 0 0.1 |

第10表 性差(B)

| | | 人数 | 性別 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 46 | 47 | 48 | 49 | 50 | 51 |
|---|-----|----|-----------|----------|----------|-----------|----------|----------|-----------|----------|----------|-----------|----------|-----------|----|
| 1 | 476 | 男 | 25 5.2 | 6 1.2 | 1 0.2 | 10 2.1 | 2 0.4 | 4 0.8 | 17 3.5 | 4 0.8 | 6 1.2 | 11 2.3 | 8 1.6 | 30 6.3 | |
| | 240 | 女 | 6 2.5 | 9 3.7 | 0 0 | 3 1.2 | 3 1.2 | 1 0.4 | 3 1.2 | 1 0.4 | 0 0 | 2 0.8 | 4 1.6 | 11 4.5 | |

| | | 人数 | 性別 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 52 | 53 | 54 | 55 | 56 |
|---|-----|----|-----------|-----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----|
| 2 | 476 | 男 | 14 2.9 | 13 2.7 | 5 1.0 | 7 1.4 | 2 0.4 | 2 0.4 | 4 0.8 | 2 0.4 | 1 0.2 | 1 0.2 | |
| | 240 | 女 | 8 3.3 | 0 0 | 5 2.0 | 5 2.0 | 5 2.0 | 3 1.2 | 0 0 | 2 0.8 | 1 0.4 | 2 0.8 | |

| | | 人数 | 性別 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 57 | 58 | 59 | 60 | 61 | 62 | 63 |
|---|-----|----|-----------|----------|-----------|----------|----------|-----------|----------|-----------|-----------|----------|-----------|----------|----------|-----------|----|
| 3 | 476 | 男 | 21 4.2 | 4 0.8 | 17 3.5 | 7 1.4 | 8 1.6 | 13 2.7 | 5 1.0 | 19 3.9 | 17 3.5 | 6 1.2 | 10 2.1 | 1 0.2 | 1 0.2 | 19 3.9 | |
| | 240 | 女 | 13 5.4 | 0 0 | 3 1.2 | 2 0.8 | 1 0.4 | 6 2.5 | 0 0 | 17 7.0 | 9 3.7 | 1 0.4 | 7 2.9 | 0 0 | 0 0 | 4 1.6 | |

| | | 人数 | 性別 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 64 | 65 | 66 | 67 | 68 | 69 |
|---|-----|----|----------|-----------|-----------|----------|-----------|-----------|----------|----------|--------|----------|-----------|-----------|----|
| 4 | 476 | 男 | 6 1.2 | 10 2.1 | 10 2.1 | 8 1.6 | 13 2.7 | 23 4.8 | 2 0.4 | 9 1.8 | 0 0 | 0 0 | 10 2.1 | 11 2.3 | |
| | 240 | 女 | 4 1.6 | 9 3.7 | 5 2.0 | 2 0.8 | 5 2.0 | 5 2.0 | 2 0.8 | 2 0.8 | 0 0 | 2 0.8 | 7 2.9 | 5 2.0 | |

| | | 人数 | 性別 | 25 | 26 | 27 | 28 | 70 | 71 | 72 | 73 |
|---|-----|----|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|----------|-----------|----|
| 5 | 476 | 男 | 27 5.4 | 20 4.2 | 17 3.5 | 11 2.3 | 10 2.1 | 7 1.4 | 5 1.0 | 11 2.3 | |
| | 240 | 女 | 4 1.6 | 2 0.8 | 4 1.6 | 6 1.2 | 4 1.6 | 6 1.2 | 0 0 | 0 0 | |

| | | 人数 | 性別 | 29 | 30 | 31 | 74 | 75 | 76 |
|---|-----|----|-----------|-----------|----------|------------|------------|--------|----|
| 6 | 476 | 男 | 34 7.1 | 47 9.8 | 2 0.4 | 41 8.6 | 32 6.4 | 0 0 | |
| | 240 | 女 | 15 6.2 | 22 4.5 | 3 1.2 | 26 10.8 | 25 10.4 | 0 0 | |

| | | 人数 | 性別 | 32 | 33 | 34 | 35 | 77 | 78 | 79 | 80 |
|---|-----|----|------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|-----------|----|
| 7 | 476 | 男 | 38 7.8 | 27 5.4 | 10 2.1 | 40 8.4 | 25 5.2 | 18 3.7 | 28 5.9 | 6 1.2 | |
| | 240 | 女 | 29 12.0 | 10 4.1 | 4 1.6 | 6 2.5 | 10 4.1 | 18 7.4 | 37 15.4 | 11 4.5 | |

「I一般式方式によるもの」の問題につき「あなたがこのリストでマ
 ークした事項があなたの悩みを完全に描き出していると思えますか」と
 入が33%で、自分たちの悩みが、この種の平板な質問では盡くせない
 とか、理解してもらえないだろうかなどと書き加えているものがかなりあ
 る。

「自己の悩みを完全に描き出しているという」ものは34%、「5な
 い」というものは36.4%、「ある程度」と特記したものが14.2%、無記

| | 人数 | 性別 | 36 | 37 | 38 | 39 | 81 | 82 | 83 | 84 |
|---|-----|----|-----------|------------|----------|-----------|----------|-----------|----------|------------|
| 8 | 476 | 男 | 26 5.4 | 47 9.8 | 4 0.8 | 25 5.2 | 6 1.2 | 13 2.7 | 3 0.6 | 30 6.3 |
| | 240 | 女 | 21 8.7 | 43 17.9 | 4 1.6 | 12 5.0 | 2 0.8 | 3 1.2 | 6 2.5 | 24 10.0 |

| | 人数 | 性別 | 40 | 41 | 42 | 43 | 44 | 45 | 85 | 86 | 87 | 88 | 89 | 90 |
|---|-----|----|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|-----------|-----------|--------|
| 9 | 476 | 男 | 27 5.4 | 21 4.2 | 26 5.4 | 18 3.7 | 24 4.9 | 22 4.6 | 13 2.7 | 11 2.3 | 2 0.4 | 26 5.4 | 28 5.9 | 0 0 |
| | 240 | 女 | 11 4.5 | 18 7.4 | 13 5.4 | 3 1.2 | 7 2.9 | 16 6.6 | 3 1.2 | 3 1.2 | 3 1.2 | 0 0 | 6 2.5 | 0 0 |

第 11 表

總 計

| | 描き出している | い | な | い | ある程度 | 無 | 記 | 入 |
|------|---------|---------|-----|---------|------|---------|----|---------|
| 716名 | 244 | (34.0%) | 275 | (38.4%) | 102 | (14.2%) | 95 | (13.2%) |

男女別

| | 描き出している | い | な | い | ある程度 | 無 | 記 | 入 |
|--------|---------|---------|-----|---------|------|---------|----|---------|
| 476名 男 | 168 | (35.3%) | 153 | (32.1%) | 93 | (19.5%) | 62 | (13.0%) |
| 240名 女 | 76 | (31.6%) | 122 | (50.8%) | 9 | (3.8%) | 33 | (13.7%) |

學校別

| | 人数 | 描き出している | い | な | い | ある程度 | 無 | 記 | 入 | | |
|------|-----|---------|-----|-------|-------|-------|-------|------|-------|------|-------|
| 西京大學 | 386 | 男 | 152 | 54 | 3.55% | 65 | 42.8% | 4 | 3.5% | 29 | 19.0% |
| | | 女 | 234 | 75 | 32.0% | 121 | 51.7% | 6 | 2.5% | 32 | 13.7% |
| 京都大學 | 279 | 男 | 273 | 88 | 32.2% | 72 | 26.3% | 84 | 30.1% | 29 | 10.3% |
| | | 女 | 6 | 1 | 16.6% | 1 | 16.6% | 3 | 50.0% | 1 | 16.6% |
| 工藝纖維 | 51 | | 26 | 50.8% | 16 | 31.2% | 5 | 9.8% | 4 | 7.8% | |

例

二一八

1. 人間の悩みはこのような箇條書で簡単に表現されるようなものでなく、もつと複合的、有機的なものである。

2. 多くの悩みが細分化されているので、これ以上大きな悩みというほどのものはないが、この中の悩みの程度が自分の解釋した通りに理解されるかどうか心配である。

3. 言葉でいいあらわせない心理状態がある。もつと奥深いところに何かがある。調査者ともつと突込んで話してみた。

V 結果の檢定

調査の結果がどの程度有意義なものであるかを知るために、第4表を中心に檢定を行なつた。

分散分析の結果第12表及び第13表に示す。

(1) $m = 2$ $k = 9$

$$K = \frac{\sum_{m} \sum_{k} (X_{ij})^2}{mk} = \frac{365.8^2}{18} = \frac{133809.64}{18} = 7433.86$$

(2) $St = \sum (X_{ij})^2 - K = (18.9^2 + \dots + 19.5^2) - 7433.86 = 8386.86$
 $- 7433.86 = 953.00$

(3) $Sb = \frac{\sum T_i^2}{m} - K = \frac{16628.18}{2} - 7433.86 = 880.23$

(4) $Sw = St - Sb = 953.00 - 880.23 = 72.77$
 $F_0 = \frac{110.02}{44581} = 24.2474$

第12表

| 變動因 | 平方和 | 自由度 | 不偏分散 |
|-----|--------|-----|--------|
| 級間 | 880.23 | 8 | 110.02 |
| 級内 | 72.77 | 9 | 4.4581 |
| 全體 | 953.00 | 17 | |

以上を分散分析表に入れると

自由度と6に對應する P 0.01 の F をみると

$$F_{0.01} = 5.47$$

$$\therefore F_0 (= 24.25) > F_{0.01} (= 5.47)$$

であるから有意 (1% level) である。

次に男女間の差異をみると

(1) $m = 9$ $k = 2$

$$K = \frac{\sum_{m} \sum_{k} (X_{ij})^2}{mk} = \frac{133809.64}{18} = 7433.86$$

(2) $St = \sum (X_{ij})^2 - K = 8386.86 - 7433.86 = 953.00$

學生の悩み

(3) $Sb = \frac{\sum T_i^2}{m} - K = \frac{39164.41 + 28089.76}{9} - 7433.86 = 7472.68 - 7433.86 = 38.82$

(4) $Sw = St - Sb = 953.00 - 38.82 = 914.18$

以上を分散分析表に入れると

| 變動因 | 平方和 | 自由度 | 不偏分散 |
|-----|--------|-----|-----------------------------|
| 級間 | 38.82 | 1 | $\frac{38.82}{1} = 38.82$ |
| 級内 | 914.18 | 16 | $\frac{914.18}{16} = 57.14$ |
| 全體 | 953.00 | 17 | |

$$\therefore F_0 = \frac{38.82}{57.14} = 0.6993$$

自由度と6に對應する P 0.05 の F をみると

$$F_{0.05} = 4.49$$

$$\therefore F_0 (= 0.6793) < F_{0.05} (= 4.49)$$

であるから有意義でない。

故に男女間には有意の差が認められない。

VI 結論

以上の調査結果からみて、概ね次の諸點が推せると思う。

1. 全般的にみて、社會觀と進路 (就職と將來の方針) についての悩みが高い頻度を示し、情緒的條件、人生觀に次いで、經濟的條件、社會生活、學園生活の諸問題が擧げられる。身體的條件と家庭生活は、この調査に關する限り、かなり低い位置を占めている。

2. これを内容に立ち入つてみると、對外的には、社會觀では現實と理想の矛盾、政治の欺瞞に意に滿たないものを感じると共に、再軍備と戦争の危機感におびえている。しかも自分たちを將來まつものは、見通しのつかない行きづまりと不安で、進路がはつきりしない、社會に出てからが不安であると心を痛め、卒業期が近づくと共に就職難に呻いている。また経済的には、財政の窮乏を告げているものがかなり多く、恵まれているものも殆んどが休暇にはアルバイトを要請せられている。この社會の嵐の中で、學園生活でも、講義の面白くないものが多かつたり、大學の制度に不満を持つたりで、まことに混沌と低迷の青春である。

一方内面的には、この年令層共通の情緒的不安定であり、能力に乏しい、實踐力、決斷力がないなどの、自己不信、劣等感がみられ、それが身體的には、氣が散つて勉強ができない。記憶力がないなどの形を伴い、また應待が下手、はずかしがりや、意見の發表ができないなどの社會的不適應を示している。また、戦時、終戦直後の空白時代の學力低下を自覺して、讀書力の不足をなげいている。將來如何に生くべきか、人生とは何かなど、人生觀の悩みも青年期として多くみられる。

3. 社會の動搖に對しイデオロギーの即決衝動に驅られ、經濟的不安定のうちに理想追求の意欲を阻止され、その上自ら思うところを明確に表現する自信が持てないという、フラストレーションとコンフリクト自體がうつせき、卑屈、ニヒル、分裂症の押型にはめつけらるべく運命づけられているようなものである。それだけに、その指導には慎重な考慮を要する。

4. 就職問題をはじめとして、將來の進路について相談助言を非常に

要望している（特に教師に對して）。しかしこのことは、これらの分野に限られていないはずである。そこにガイダンスの必要が痛感されるのである。

たしかに青年は、他人は頼りにならない、頼りたくないといふ孤高を尊び、自ら解決するとうそぶいてもいる、（第一調査の自由記述による）。しかしこの閉鎖性と逆に、悩みを氣を許して語りかける相手を持ちたがつているのである。予防過程、治療過程としてのカウンセリングは、いくら高く評價されても過ぎであることはない。

5. 調査の結果を男女別にみると、調査のⅠとⅡとの調整で全般的に考える必要があるようだ。

進路の問題は共通に多い。女子は特に、慣習の束縛にかなり悩んでいるし、また卒業後の進路が未だはつきりしないので苦しんでいるが、將來の生き方に對する悩みが女子に多いことからしても過渡期のわが國の女子には複雑な問題が介在していることがうかがえる。情緒的に、異性の愛情を求めているのは、もちろん男子に非常に多いのに、社會生活では、意見を思うように發表できない、異性とうまく交際できないなどは、はずかしがりや、内氣もまた男子が多くなっている。その他においては、男女間に大きな差はない。

6. 學校差は、學園生活と社會生活の問題で、京大と西京大の間になりの性格の差のあることがうかがわれる。殊に西京大學が男女共學であることからして情緒的な安定性がみられるのであるまいか。また工藝纖維大學では就職の問題が斷然多い比率を示したのは、全部が四回生であつたためである。この問題ではむしろ第一調査の立命館大學理工學部

の第二部（夜間學生を收容する）との比較ではつきりとその差が出てくる。ここでは、勤勞と勉學の場の喰いちがい、就職に對する切實な懊惱、そして第二調査と共通の社會觀の煩悶がにじみでている。

Ⅶ 反省と検討

1. この調査では、質的追求めが十分に行えなかつたことは大きな缺陷である。悩みの深さをみて欲しいという要求を記入しているものがかなりあつた（Ⅱの例₂及び₃参照）。また相互が複合していて、簡単に表明できないというものもあつた（同一参照）。たしかに、悩みの問題は、われわれが考えているほど、被調査者自體にはつきりした型でとらえられていないというのがほんとはあるまいか。考えてみれば、悩みとしての意識よりさきに、不快の情緒が感じられて、その情緒の解消を求める意識が先行して、悩みの意識の反省はあとまわしになるのではあるまいか。また悩みとしてチェックされたものは、情緒的な表出であるよりもむしろ知的にいつたん整理されたものの再表現であるともいえる。これらの點にこの調査の本質的な缺陷があるように思われる。

2. また、この調査では、90項目の問題を8領域に分類して整理したのであるが、その項目の範疇がその領域にびつたり當てはまるかどうかあいまいなものが多かつた。例えば「戦争のことが氣になる」という質問の形式がそのまま社會觀の問題としてまとめられるか、「人生問題に悩む」ことが人生觀の問題に直結してまとめられるか、これは検討を要するところだが、しかし元來この調査の目的は一般的な様相を打診することにあつたわけで、この上、サンプリングによる面接とか、プロ

ジェクティブ・メソッドや環境調査などでこれ以上に入つて行くことによつて、これらの弊は救われるであろう。

3. 整理にあたり、専ら統計的處理に基づいて機械的に解明したのであるが、各個々の結果を総合的にみて、學生個人のガイダンスの問題に入つてゆかねばならない。

この種調査の表面に現われた結果からだけでも、診療的價値を生み出し得るし、事前にその處置を講じてやり得る場合が多いのである。

4. この調査に當たつて、手元にある、この方面の參考資料に負うところはまことに多大であつたが、むしろ第一調査の自由記述法を先行せしめたことは、その焦點を合わせるに効果的であつた。一番大きな收穫は、歐米のそれとわが國との間に、質的に大きな悩みのずれのあることを知つたことである。

5. チェック・リストの項目作成は實に困難であることが、ⅠとⅡとの照合ではつきりした。一般的な傾向としては兩者は似ているか、その相關はより積極的な結果を示してよいはずである。これはⅡの摘出法によると、當面している問題が表面に出て、青年共通の心性の問題がそのかげに被われて消えた部分がかかりあつたためとか、これだけ多くの中から選ばせることは技術的にも困難であつたためとも考えられる。

6. この調査では性に關する項目群が余りにも少なかつた。初め、記名式で實施するつもりだつたので、發表しにくいだろうとの推測もあつて少なくしたが、これは青年の悩みの調査として、その重要な目的の一つを逸したことになると思う。學生の一人は次のように余白を埋めてい

例

僕はまじめに進言したい。われわれの年頃の話の大半は勉強と性的な話である。性的欲求のはけ口を他の人はどう處理しているであろうか。

7. この調査で宗教の問題を落してしまつたのも穩當を缺くように思う。

8. この調査の對象は、ジュニャーコースに偏つてゐるので、三、四回生を多くしたら、就職の悩みがもつと大きく出たであらう。もつとも、この調査では、進學、分科の試験に對する悩みがこれに代置されてゐる。

9. 第二調査の「Ⅲ質問の表現度についての検討」で、質問「あなたがこのリストでマークした事項が悩みを完全に描き出していると思ひますか」の「完全に」は不要であつたと思う。京都工藝纖維大學の調査表にこの言葉が入つてゐるので、後で比較するための必要から同一形式にしたのだが、結果は、工藝纖維大學では、「描き出している」が35.2%、「「いなり」が57.6%、無記入が、81%で、この調査では、「描き出している」が34.0%、「いなり」が38.4%、「ある程度」と特記したものが14.1%無記入が13.2%となつてゐて兩者ともさして違つてゐない。この調査では、調査項目もかなり充實したつもりだつたが、この予想はくつがえされた。底知れぬ井戸に釣瓶をおろすような氣がする。

10. 記名と無記名の兩者を、例えば、「60 學校で面白くない講義が多い」、「63 大學の制度に不満がある」、「34 思想問題に悩んでいる」、「35 現在の社會制度に不満がある」、「89 戀愛問題で悩んでいる」につ

いて調べてみると、差別はほとんどみられない。この程度の問題では影響はないとみなしてよいと思う（四第二調査、「調査對象」の備考参照）。

11 第一調査の實際の質問は、「自分が現在最も悩んでいる問題の二、三を述べ、その解決に當たつて相談するとしたら、誰を選ぶかを記す」となつてゐるし、第二調査の「Ⅱ選定方式によるもの」でも相談相手を書かせたのであるが、整理に當たつて、回答數の少なかつたこと、別の手續きを必要とすることなどの理由から獨立のテーマとして取扱うことにして割愛した。進路、社會觀など對外的な問題に對しては、教師が頗る多く、近親がこれに次いでゐるし、自己の内面生活に對しては兩親、教師、友人、先輩と共に、寧ろ自分だけで解決したいというのがかなり多かつた。

12. この種の調査が、周圍の客觀的情勢に大きく影響を受けることは肯けることであつて、各項目のウェイトも自らその時その時で消長のあることはもちろんである。朝鮮事變の休戰協定の聲を聞き、それだけで明らかにこの結果もまた變つた様相へ導かれてゐるであらうことが考えられる。

VIII 問題の展開

以上學生のもつ悩みは、社會的、心理的條件に基づくものが頗る多いという結果を得た。そして社會觀、經濟的條件については、これは學生の問題としてのみに歸結せられないことはもちろんである。しかも成人の多くは、理想と現實の混同としてその解答を回避し、ますます現實

遊離、觀念への耽溺に追いやり、破壊的衝動にかりたてているか、自棄に陥しいる。情緒的條件、人生觀の問題は成熟の過程として當然であり、しかもここでもフラストレーションとコンフリクトの緊張の高まりがうかがえる。その他諸々の悩みと共に、相錯綜して、さまざまの機制を伴う。それが爆發であれ、沈湎であれ、情熱は極端へと突き進ませる。この調査の全體的展望に基づいてそれぞれの項目の分析、フラスト

レーションとコンフリクトの類型による解明、面接法とか、プロジェクトイヴ、メソッドなどによる基礎的研究、各領域毎の検討などによつて、ガイダンスの實踐的效果をあげて、今後の課題としたい。

この調査研究に當り、資料蒐集の便宜、問題項目の選定等において、京大佐藤幸治教授によつて與えられた御協力に謝意を表する次第である。